

経営比較分析表

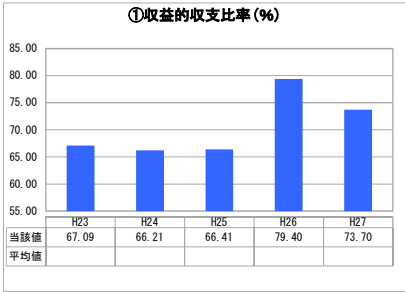
広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.18	100.00	2,937

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,622	778.14	70.20
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,901	3.34	1,167.96

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



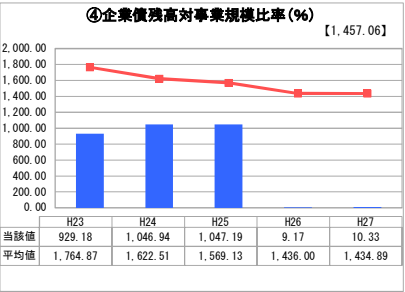
「単年度の収支」



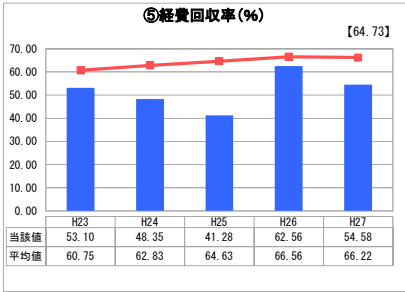
「累積欠損」



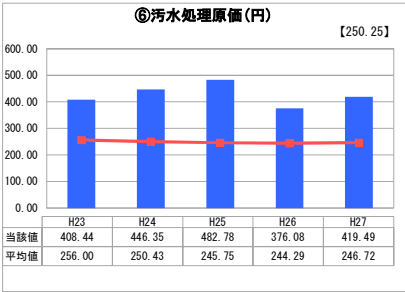
「支払能力」



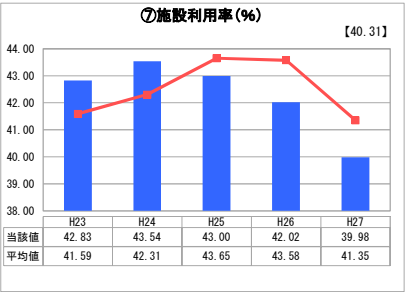
「債務残高」



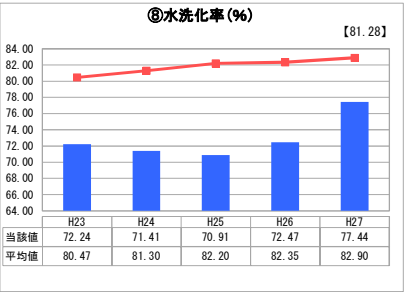
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

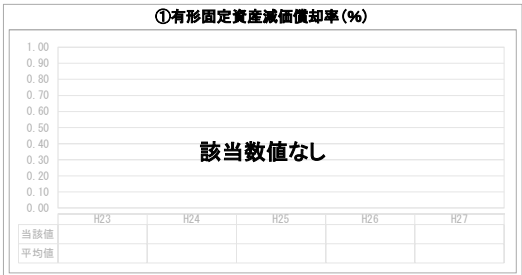


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

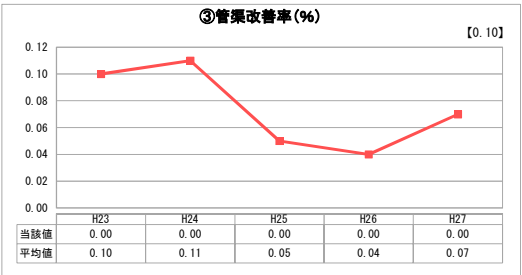
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●収益の収支比率、企業債残高対事業規模比率
平成27年度は、収益の収支比率が73%程度であり、昨年度に比べ、7ポイント悪化している。主な要因は、単年度での修繕工費が増大したためである。企業債残高対事業規模比率は、企業債残高の減少に伴い平均値を下回り、昨年度に続き改善傾向である。

●経費回収率、汚水処理原価
平成27年度は、経費回収率が昨年度に比べ8.0ポイント悪化し、汚水処理原価は昨年度に比べ43.4円高くなっている。主な要因は、単年度での修繕工費が増大したためである。なお、汚水処理原価が平均値より高い理由は、8市町村の合併により、現在6処理場を有しているためである。今後、経常的経費の節減と適正な経費回収に努め、処理場の統廃合について検討する。

●施設利用率、水洗化率
平成27年度は、施設利用率が昨年度に比べ2ポイント悪化している。主な要因は、布野水質管理センター増設による処理能力の向上によるものである。水洗化率は平均値を下回っているものの、接続人口が毎年増加しているため年々向上している。今後も加入促進を行い、水洗化率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

平成3年から下水道工事に着手し、平成6年から供用開始しているため、管渠の老朽管更新を行う時期ではないが、計画的な更新に努める。

全体総括

8市町村の合併により、現在6処理場を有しているため、汚水処理原価が高く、経費回収率や施設利用率が平均値に比べ低い状況にある。
今後は、公営企業会計化へ向けて資産を整理し、施設効率の改善や料金体系の見直しを行いながら、処理場の統廃合も視野に入れ、計画的な事業展開に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。